

共創の取組事例

◆「共創による地域づくりシンポジウム」を開催しました(R6.10.5 岩見沢市)

- 本シンポジウムでは、国の「第9期北海道総合開発計画」（令和6年3月閣議決定）及び道の「北海道総合計画」（令和6年7月決定）の推進に向けて、様々な分野で活躍されている方々に「次世代に向けた地域づくり・人づくり」をテーマに議論いただきました。
- 司会進行は、「次世代」の代表である北海道岩見沢緑陵高校放送局のお二人。和やかなムードで開会しました。
- 第9期計画の審議に参画された藤沢 久美氏による基調講演は、約190名の会場参加者を魅了。住民参加によるまちづくりを進めるためにはデータを活用した「見える化」が非常に重要性であること、地域の素晴らしさを自らの感動とともに語ることが共感を生む力になること等、大変印象的なお話でした。
- パネルディスカッションは、山本 理人氏によるコーディネートのもと、「次世代」や「内と外」をキーワードに展開。「共創の構造は、縦横の展開に加え、これらを掛け合わせて立体化することが必要。さまざまな世代が語り合い、話し合う場を創り、それを融合させることで地域課題解決の方策が見えてくるのでは。」との山本氏の締めくくりのメッセージは、わたしたちの進むべき道筋を示すものとなりました。
- シンポジウム後は、参加者による交流があり、興奮冷めやらぬ熱気の中、さっそく「共創」がキックオフされた、そんな1日になりました。

（文責：共創による地域づくりシンポジウム事務局）

★司会進行：北海道岩見沢緑陵高校放送局

★基調講演：藤沢久美 氏
株式会社国際社会経済研究所理事長
「ヒト・モノ・カネが循環する
参加型まちづくりのポイント」

★パネルディスカッション：
「次世代に向けた地域づくり人づくり
～内と外の化学反応」

【コーディネーター】山本 理人 氏
国立大学法人北海道教育大学岩見沢校キャンパス長

【パネリスト】
・岸本 友宏 氏
一般社団法人空知建設業協会理事
広報企画・入職促進委員長
・北口 博美 氏
NPO法人炭鉱の記憶推進事業団事務局長
・藤沢 久美 氏
株式会社国際社会経済研究所理事長
・宮川 愛由 氏
認定NPO法人ほっかいどう学推進フォーラム
事務局長・特別研究員



大盛況の会場



基調講演（藤沢久美 氏）



司会の牧野くんと菅原さん

共創の取組事例

◆ こどもの運動プログラムを通じた教育機関と「道の駅」の連携

- 多様な主体との連携・協働による地域の課題解決や価値向上に向けた「共創」の取組の一環として、教育機関との協働により、地域の子ども達に運動に親しんでもらうことを目的とした運動プログラム「N(エヌ)チャレンジ」を、道の駅では初の試みとして「ハウスヤルビ奈井江(9月)」及び「三笠(11月)」でそれぞれ実施しました。

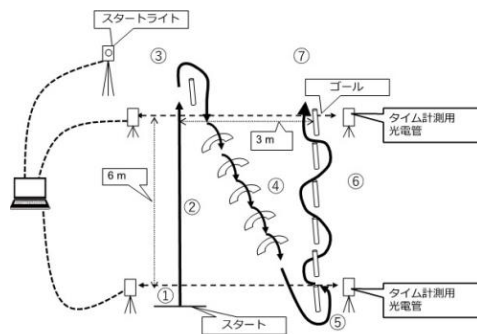
「Nチャレンジ」は、あらゆるスポーツに共通して必要な「すばやい身のこなし」の能力を測定する運動テストで、子どもが楽しんで取り組めるアジリティ（敏捷性）テストとして北海道教育大学岩見沢校の教員が開発されたプログラムです。

今回のイベントは、集客力と地域コミュニティ機能を持つ「道の駅」で実施することで、「Nチャレンジ」の普及促進、道の駅を拠点として地域の子ども達や住民との交流促進を図ることを目的として実施しました。



教育機関

Nチャレンジプログラム (道教育大岩見沢校が開発)



子どもの直線のスピードや方向変換を中心としたアジリティ能力を楽しく測定する運動プログラム
約6～10m四方のスペースがあれば実施可能

提供:北海道教育大学岩見沢校

道の駅



「道の駅」でのプログラム実施の様子



札幌開発建設部

- ・実施箇所の候補選定
- ・道の駅管理者との調整
- ・効果検証のためのアンケートなど



あわせて実施した体力測定(左)と 3×3バスケットボール体験(右)



- 当日は、道の駅に立ち寄った家族連れや地域の子ども達が多数参加しました。
- 参加者からは、「学校でも実施してほしい」、「ボール投げ、走り方教室なども実施してほしい」といった声が寄せられました。

共創の取組事例

◆ ポロクルの特別仕様車『9期計画号』2年目スタート

- 『9期計画号』が今年も札幌のまちなかを走ります。
- 昨年8月、札幌開発建設部と認定NPO法人ポロクルは「第9期北海道総合開発計画」のスタート記念として、札幌のシェアサイクル「ポロクル」の1台だけの特別仕様車『9期計画号』を展開しました。『9期計画号』は、全620台の赤い車体の内、1台だけのエメラルドグリーンのカラーの車体です。



車体は、第9期北海道総合開発計画のイメージカラーを採用

4月6日(日)より『ポロクル』2025年度営業開始！

自転車は約620台、ポートは約60カ所でスタート

札幌都心部で展開しているシェアサイクル『ポロクル』は、新車両への入替や増車により自転車約620台、昨シーズンと同規模のポート約60カ所で、4月6日(日)10時に営業を開始します！

営業期間：2025年4月6日(日)～11月15日(土)

今後ポートは、賑わいを増している創成川イーストエリア等への設置を予定しています。今シーズンも、市民や旅行者に楽しく便利で安全に札幌の街を周遊していただけるサービスを提供してまいります。



※認定NPO法人ポロクル プレスリリースより

第9期計画ポスター



第1期計画ポスター（昭和26年）



右は昭和26年に策定された第1期計画のポスターです。北海道に対する想いが描かれたこの作品への敬愛を込めて第9期計画ポスター（左）を作成しています。

※認定NPO法人ポロクルとの連携

昨今、環境負荷の低減、渋滞対策、健康増進の観点から自転車の活用が推進されています。札幌開発建設部では、札幌都心部の自転車と自動車の共存可能な車道走行環境の確保を目指し、官民協働による自転車対策の推進を図ってきました。また、近年は災害発生時の防災の観点からも協力関係を築いているなど、認定NPO法人ポロクルは、自転車の活用推進に向けて一緒に取組を進めてきたパートナーです。このような背景のもと、お互いの趣旨が相まって今回の取組に至りました。

共創の取組事例

◆「恵庭かわまちづくり」完成報告会

- 恵庭市では、これまで北海道開発局と進めてきた「恵庭かわまちづくり」について、令和元年度より国と市の協同で整備を進め、令和5年度に完成したことから、完成報告会を開催しました。

■日 時：令和6年9月7日(土) 10:15~10:30 ■場 所：花の拠点「はなふる」 ■主催者：恵庭市
■出席者：恵庭市長、長谷恵庭市議会議員、和田衆議院議員、田中道議会議員、早坂道議会議員、札幌開発建設部長、千歳川河川事務所長 ほか（約30名）

主催挨拶



恵庭市長

都市・地域再生等利用区域の指定による水辺空間の利活用が図られており、この花の拠点「はなふる」が恵庭市の交流観光拠点として年間来場者が増加している状況である。事業に携わっていただいた方々に感謝申し上げます。

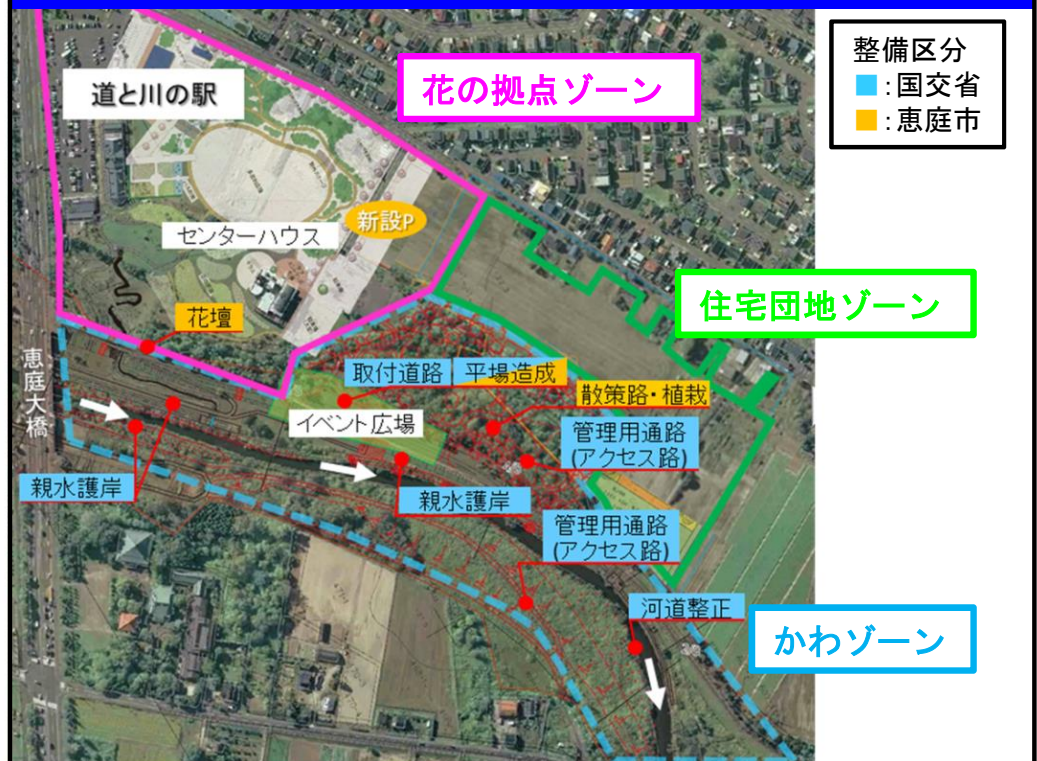
来賓挨拶



札幌開発建設部長

地域と連携した様々なイベント等の魅力向上により地域の方々の憩いの場となるとともに観光拠点として期待されることと思う。「恵庭かわまちづくり」の取り組みが地域の活性化と魅力あるまちづくりに寄与することを祈念する。

恵庭かわまちづくり 整備内容



恵庭かわまちづくり関係者による記念写真



恵庭かわまち完成報告会

かわゾーンの整備・利活用状況



共創の取組事例

◆ 地域をつなぐインフラ(橋)づくりにこどもたちが参加

- 道央圏連絡道路（国道337号）は、千歳市を起点として小樽市に至る高規格道路であり、新千歳空港、苫小牧港、石狩湾新港及び小樽港を結び、札幌圏における人流・物流の連携を図る重要な役割を果たすものです。
- そのうち、令和6年度の開通に向けて札幌開発建設部が工事を進めている中樹林道路（江別市、南幌町）において、地元・南幌小学校の児童5名とともに、新たに架かる橋梁（幌向運河橋、南7線橋）に橋名板を取り付けました。
- 橋名板は、こどもたちが筆で書いた河川名や橋の名前をもとに製作。取付前には、橋名板の裏面に思い思いのメッセージやイラストを記しました。
- 地域を支えるインフラ整備にこどもの頃から関わることで、地域への理解や愛着が深まっていくことを期待しています。



橋名板裏面にメッセージやイラストを書きました
(取付前しか見ることができません)



ボルトナットを締めて取付完了！



「幌向運河橋」の上で
記念撮影

【橋梁の概要】



橋 長:25m
橋梁形式:PC単純中空床版橋
逆T式橋台



橋 長:24m
橋梁形式:PC単純中空床版橋
逆T式橋台

共創の取組事例

◆ Bリーグ会場でパネル展、様々な世代との連携に向けて

- 3月26日、北海道開発局とレバンガ北海道の包括連携協定締結を記念してイベントを開催しました。
- 連携イベント第1弾は、Bリーグ公式戦レバンガ北海道 vs 群馬クレインサンダーズ戦の会場（北海きたえーる）にて、北海道開発局の事業を紹介するパネル展を実施。この広報活動を通じて北海道開発局公式SNSへの関心度の変化等を検証しました。
- さらに、試合開始前には、多くの観客が注目する中、コートにて協定締結を報告し、レバンガ北海道との今後の連携を宣言しました。



坂場北海道開発局長と折茂レバンガ北海道社長

SNSをフォローしてくれた方を対象に連携協定締結記念のコラボステッカーを配布。約2時間で札幌開発建設部のインスタフォロワー数はなんと約2倍に！



共創の取組事例

◆ シーニックバイウェイ北海道



シーニックバイウェイ北海道

シーニックバイウェイって？

シーニックバイウェイ (Scenic Byway) とは、景観・シーン (Scene) の形容詞シーニック (Scenic) と、わき道・より道を意味するバイウェイ (Byway) を組み合わせた言葉。地域に暮らす人が主体となり、企業や行政と手をつなぎ、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを目指す取り組みです。平成17年よりスタート、現在14の指定ルート、3つの候補ルートがあり、約500団体が活動をしています。



支笏洞爺二セコルート
ウエルカム北海道エリア



札幌シーニックバイウェイ
藻岩山麓・定山溪ルート



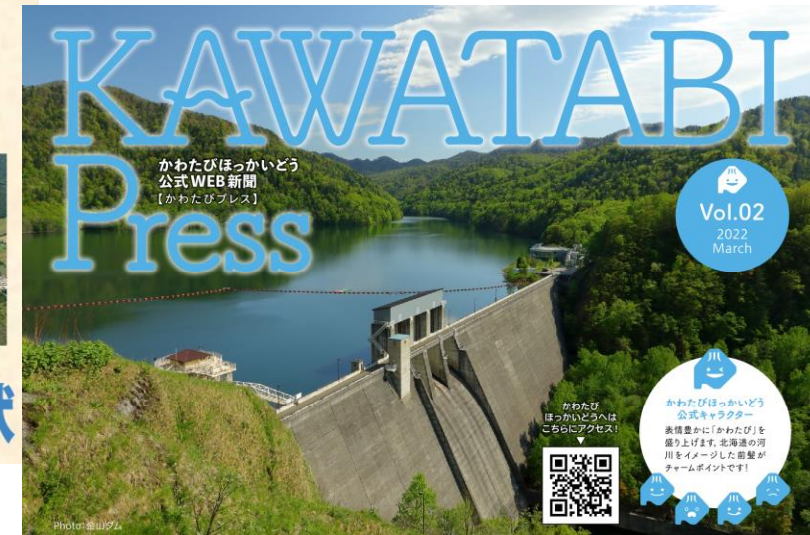
「秀逸な道」

「世界水準」の観光地形成に向け、地域の活動団体がお薦めする魅力ある景観を有する道路を選定し、景観の維持・形成や誘客に向けた広報等を重点的に実施

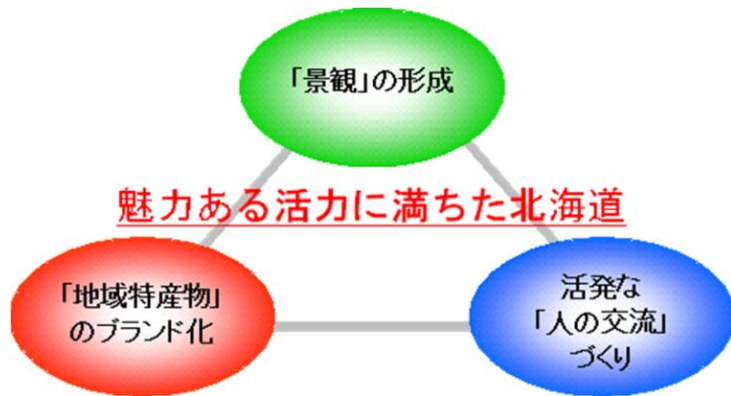
支笏洞爺二セコルートウエルカム北海道工リア
(国道453号千歳市幌美内国有林L=9 km)

札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山溪ルート
(国道230号札幌市南区定山溪国有林 L=10 km)

◆ かわたびほっかいどう



◆「わが村は美しく - 北海道」運動



- 北海道内各地での住民主体の地域活性化活動を支援するとともに、貴重な地域資源情報として事業の推進に役立て、農山漁村の発展に寄与することを目的に運動の一環として、コンクールを開催しています。
- コンクールは、道内各地で地域の魅力と活力を高めようとする地域住民の努力と行動に光をあて、全国に伝えるとともに、活動を支援し波及させていくことによって、農山漁村の新たな発展を目指します。



そらち南さつまいもクラブ

【由仁町・栗山町】

若手農業者たちが「ゆっくり由栗いも」で全国的産地を目指す

「ゆ栗いも」と両町の全国的な認知度向上を目指して、生産量と販路拡大による地域活性化に取り組んでいます。



元気村・夢の農村塾

【深川市、妹背牛町、沼田町、北竜町、秩父別町】

主に修学旅行で来道する道外の高校生を対象に20年以上にわたり農業体験の受入れを行っており、1泊2日でのファームステイのほか、2泊3日や日帰りでの受入れも行っています。